

アフリカの成長に向けた回廊開発の取り組み

国際協力機構（JICA）は、6月2日9時半より、横浜グランド インターコンチネンタル ホテルにて、アフリカにおける回廊開発をテーマにサイドイベントを開催しました。アフリカからはモザンビーク共和国のアルマンド・エミリオ・ゲブーザ大統領やジョゼ・パシェコ農業大臣、マラウイ共和国のラルフ・ジューマ経済計画開発大臣、アフリカ開発のための新パートナーシップ（NEPAD）イブラヒム・ハッサン・マヤキ長官等が登壇しました。JICAからは、堂道秀明副理事長、乾英二アフリカ部長、三浦和紀経済基盤開発部長が登壇し、アフリカにおける回廊開発の在り方について議論しました。

このサイドイベントは、16の内陸国を持ち、他の大陸と比較して圧倒的に内陸人口が多く、またインフラ整備状況が限られているアフリカにおいて、港や道路等のインフラ整備やその周辺の産業開発等を戦略的に進めることにより、域内外のコネクティビティを高め、経済交流を推進しその開発ポテンシャルを最大化することを可能にする回廊開発アプローチに焦点を当て、各国や開発パートナーの取り組みや経験について共有し、アフリカにおける回廊開発について、様々なアクター間で広く意見交換を行うために開催されました。

第一部では NEPAD、アフリカ開発銀行、JICA からアフリカ全体における回廊開発の必要性と現状について発表しました。第二部ではその中でも特に重点的な取り組みがなされているモザンビーク北部、マラウイ、ザンビアに位置する「ナカラ開発回廊」に焦点を当て、統合的な回廊開発の一事例として、モザンビーク、マラウイ両国政府代表とブラジル国際協力庁、ワールドエコノミックフォーラム及び JICA の代表により紹介を行いました。モザンビーク共和国のパシェコ農業大臣は、日本、ブラジル両政府の支援の下、モザンビーク北部のナカラ回廊で実施されている熱帯サバンナ農業開発プログラム（プロサバンナ）について、具体的な可能性や課題について説明しました。JICA からは、これまでの支援実績を踏まえ、回廊開発支援を地域統合促進支援として、支援を点から線、線から面へと拡げ、効果を最大化することを提案するなど、活発な議論が展開しました。

質疑応答では、特にプロサバンナについて、同事業がモザンビーク国民にどのように裨益するのか、などに対する質問がありました。これらに対し、モザンビーク共和国ゲブーザ大統領、パシェコ農業大臣、ズクラ運輸通信大臣から、同事業は、国内の他の回廊開発と同様に、モザンビーク政府の農業セクター開発戦略計画に沿って実施されるものであり、農業生産性の向上やインフラ整備により、地域の農民にとって、今よりも安定した食料確保や栄養改善を実現させ、市場志向型農業へのアクセスを可能にするものであると回答。また、市民社会から寄せられている土地問題への懸念については、市民社会の懸念は自分たちの懸念でもあるとし、事業の当初段階でそうした懸念が寄せられたことを歓迎した上で、地域農民の土地が奪われることはないことを明確に説明しました。このような議論の中で、アフリカの成長のための主要なアプローチの一つである回廊開発を進める上で、インフラのみならず市場志向型の産業育成が重要であることと併せて、開

【第5回アフリカ開発会議サイドイベント】

発の透明性を確保し、地域住民など多様なステークホルダーを巻き込んでいくことが重要である、という点が再認識されました。今回の議論が、今後、アフリカにおける回廊開発の取り組みに反映されていくことが期待されます。JICAは今後とも、アフリカの国際回廊が、それらを有する各国の互惠関係に発展するよう、開発パートナーと連携しつつ役割を果たしていきます。

■本イベントの登壇者

【開会の挨拶】

- ・モザンビーク共和国 アルマンド・エミリオ・ゲブーザ大統領
- ・NEPAD イブラヒム・ハッサン・マヤキ長官

【プレゼンテーション】

- ・モザンビーク共和国 ジョゼ・パシェコ農業大臣
- ・ブラジル国際協力庁 ジョアン・タバジャラ副長官
- ・ワールドエコノミックフォーラム「グロウ・アフリカ」 アルン・カトリッジ事務局長
- ・アフリカ開発銀行「アフリカのためのインフラ共同体」 モハメド・ハッサン調整官
- ・乾英二 JICA アフリカ部長
- ・三浦和紀 JICA 経済基盤開発部長

【コメンテーター】

- ・マラウイ共和国 ラルフ・ジューマ経済計画開発大臣
- ・ザンビア共和国 ンゴナ・チベサクンダ駐日特命全権大使

【閉会の挨拶】

- ・堂道秀明 JICA 副理事長